

# 沖縄県西表島の方位石調査中間報告

2019年7月29日~8月5日・2020年2月2日~2月8日



東海大学文学部 北條芳隆

石垣島

西表島

竹富島

波照間島



網取施設 (宿舎)

旧 網取村

旧 崎山村

崎山方位石

旧 鹿川村

鹿川方位石

鹿川住居区画最高所

鹿川御嶽跡

崎山・鹿川2地点の方位石所在地



北側の海上からみた旧崎山村「方位石」の立地（標高152m）  
最高所ではなく鞍部の稜線上



崎山村跡に残る方位石 (標高152m)

# 崎山節

ゆくい頂遊びばな登り  
りょうり

ユクイチジ

波照間ゆ生まれ島ゆ見  
上ぎりば

我屋ぬ母産ちやる親  
ぬ 真面見るそんね



方位石は波照間島を眺望する位置に置かれた

元網取・崎山住民の親睦会  
「うるち会」が1998年に建  
立した「ユクイチジ」顕彰碑

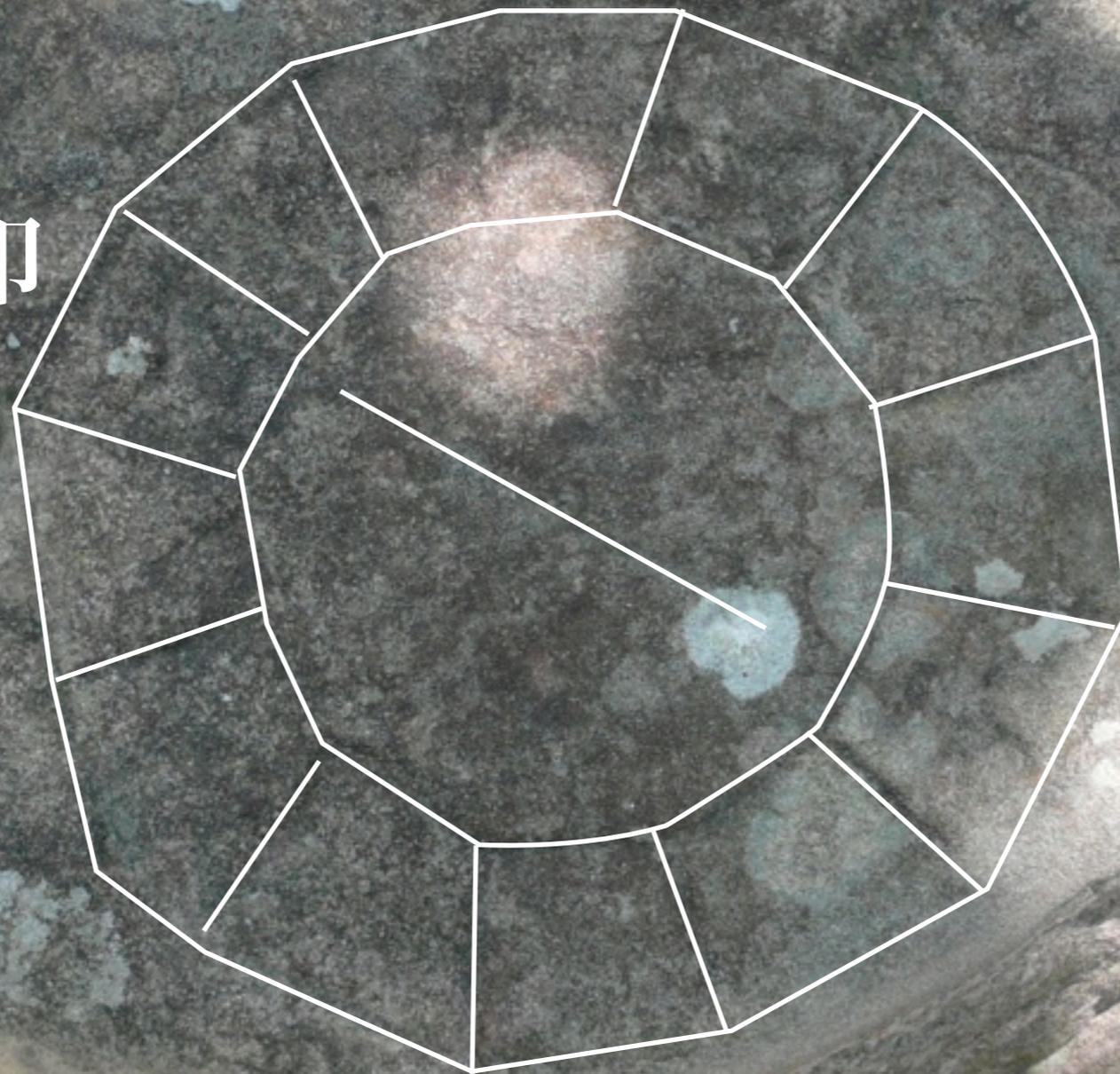


尾根上に露出した砂岩の転石上面に刻まれた方位石



砂岩の転石上面端部を平滑に均し12方位が刻まれた

「午」の刻印



「子」の刻印

表面の風化が激しく、レイアウトの詳細を検討するには拓本が必要

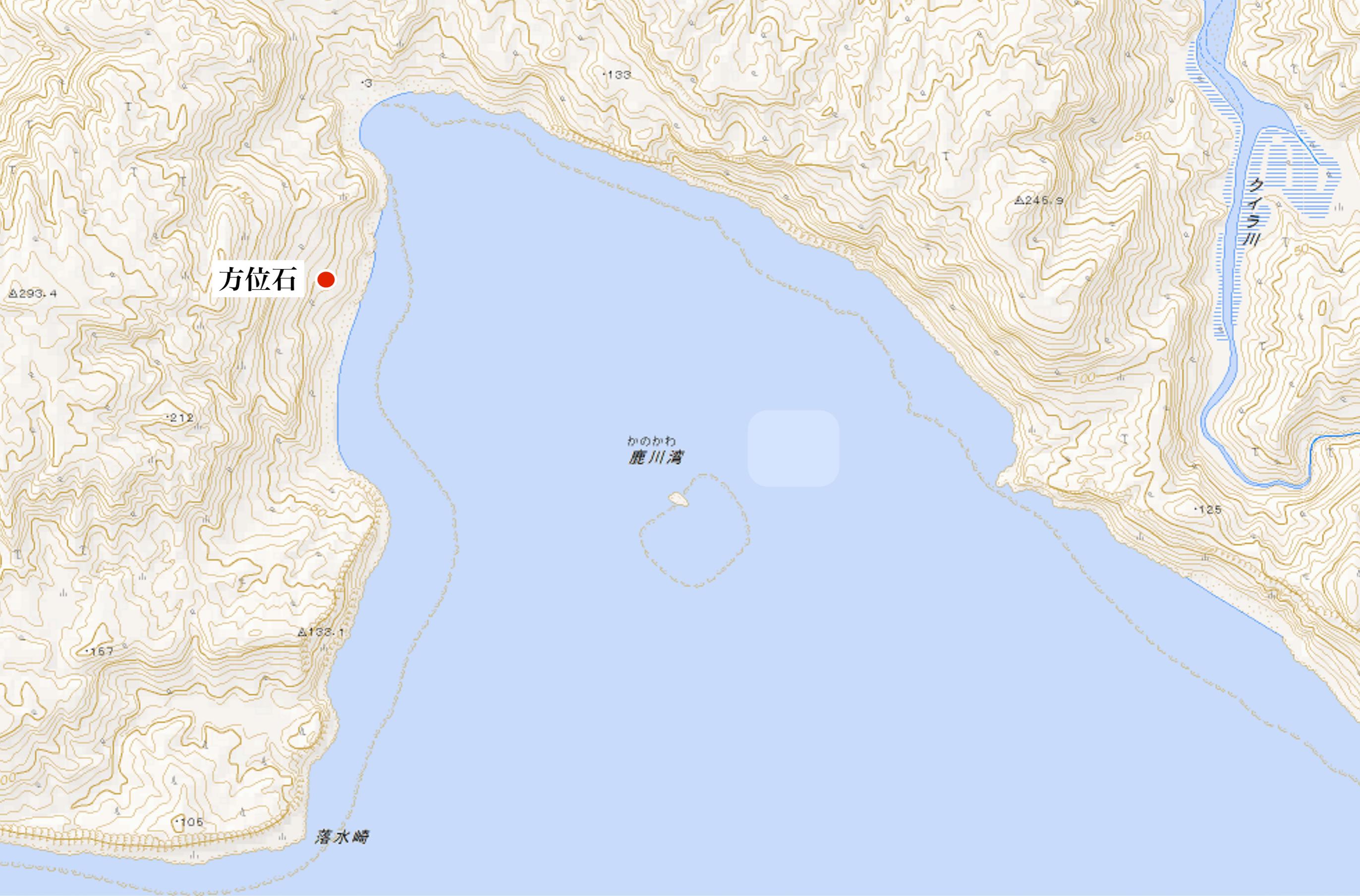


高精度GNSS観測は上方の木立に遮られ現時点では未達成である。再度観測を要するが、ハンディGPSでの観測結果は方位石の子午線は真北から $3^\circ$ 東に振れる



鹿川方位石

鹿川地区の方位石



鹿川地区の方位石（旧集落内の標高47m地点に立地）

位置出しの決め手と  
なったのは井戸跡



方位石 ●

井戸

村跡の中心区画内に位置する方位石

麻川村全圖

北  
十  
東



村跡の中心区画内に位置する方位石



方位石は砂岩の転石の  
長軸面を平滑に均し刻  
み面とする。ただし側  
面の一部にも直線の刻  
みが施される



方位石の刻面は水平から  
20°海側（東側）に傾く。  
本区画自体も東側に向け  
た緩傾斜面

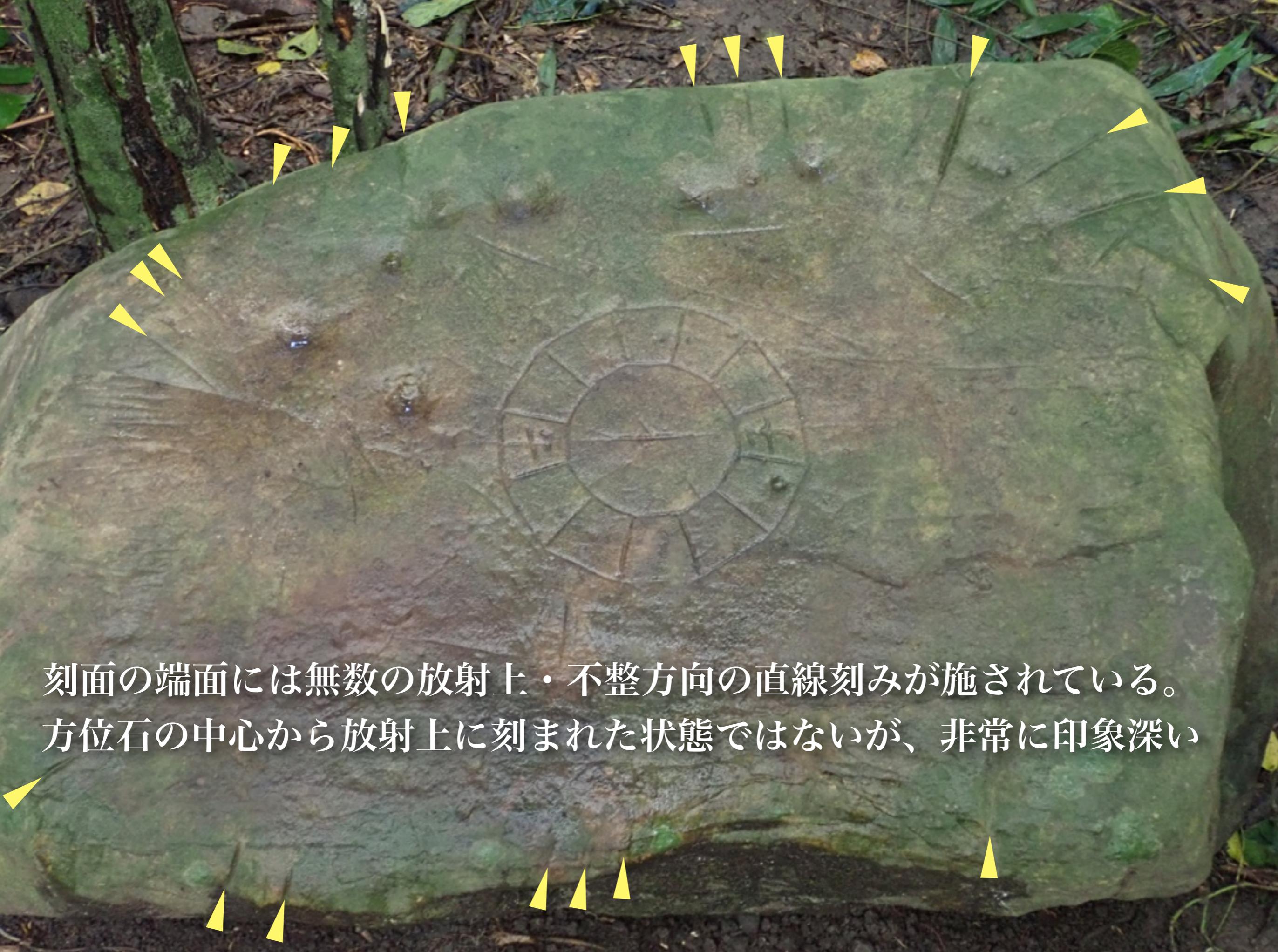


方位石の刻面は長辺約120cm、短辺約90cm。12方位表示（径約30cm）を中心に配するが、南北両側にさまざまな直線を刻む。岩絵を彷彿とさせる不思議な刻面の様相。

12方位はフリーハンドで刻まれているが、崎山のものより格段に手慣れた印象。外周と内周の径の比率は約1:1となる。真北からの振れも1度未満に収まる







刻面の端面には無数の放射上・不整方向の直線刻みが施されている。  
方位石の中心から放射上に刻まれた状態ではないが、非常に印象深い



方位表示より南側の刻線の様相



方位表示より北側の刻線の様相

A close-up photograph of a rock surface, likely a fossiliferous rock, showing a series of 14 parallel grooves or ridges. The rock has a greenish-brown hue with some darker, reddish-brown areas. The grooves are oriented horizontally and are evenly spaced. The text "14本の平行刻み" is overlaid on the image, indicating the number and orientation of these features.

14本の平行刻み

方位表示より北側端面付近の刻線の様相

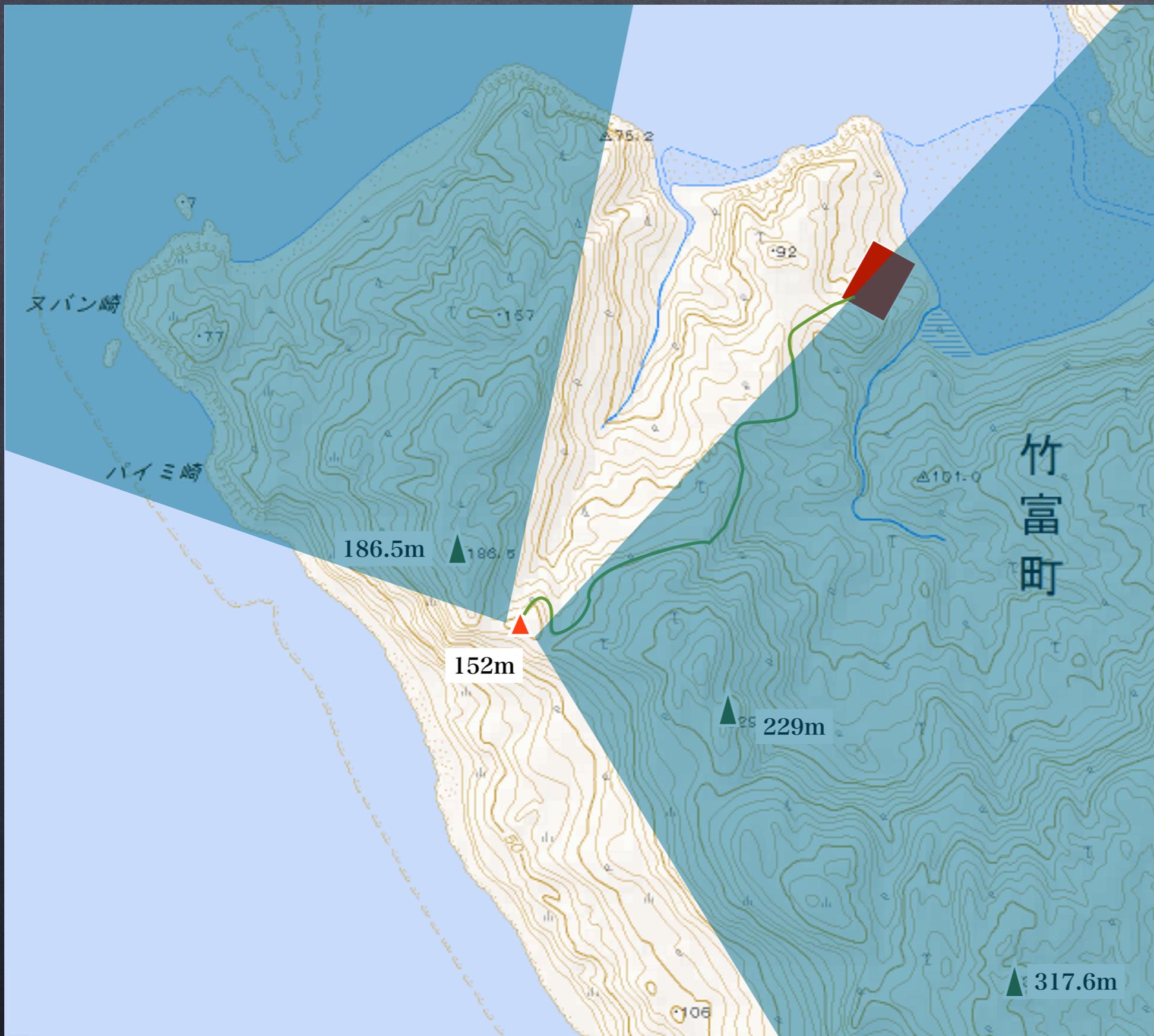
# 崎山節

ゆくい頂遊びばな登り  
りょうり

ユクイチジ

波照間ゆ生まれ島ゆ見  
上ぎりば

我屋ぬ母産ちやる親  
ぬ 真面見るそんね



崎山方位石の洋上可視範囲（標高152m）

外離島番所

西表島

網取ブシヌヤシキ

崎山「方位石」

鳩間島

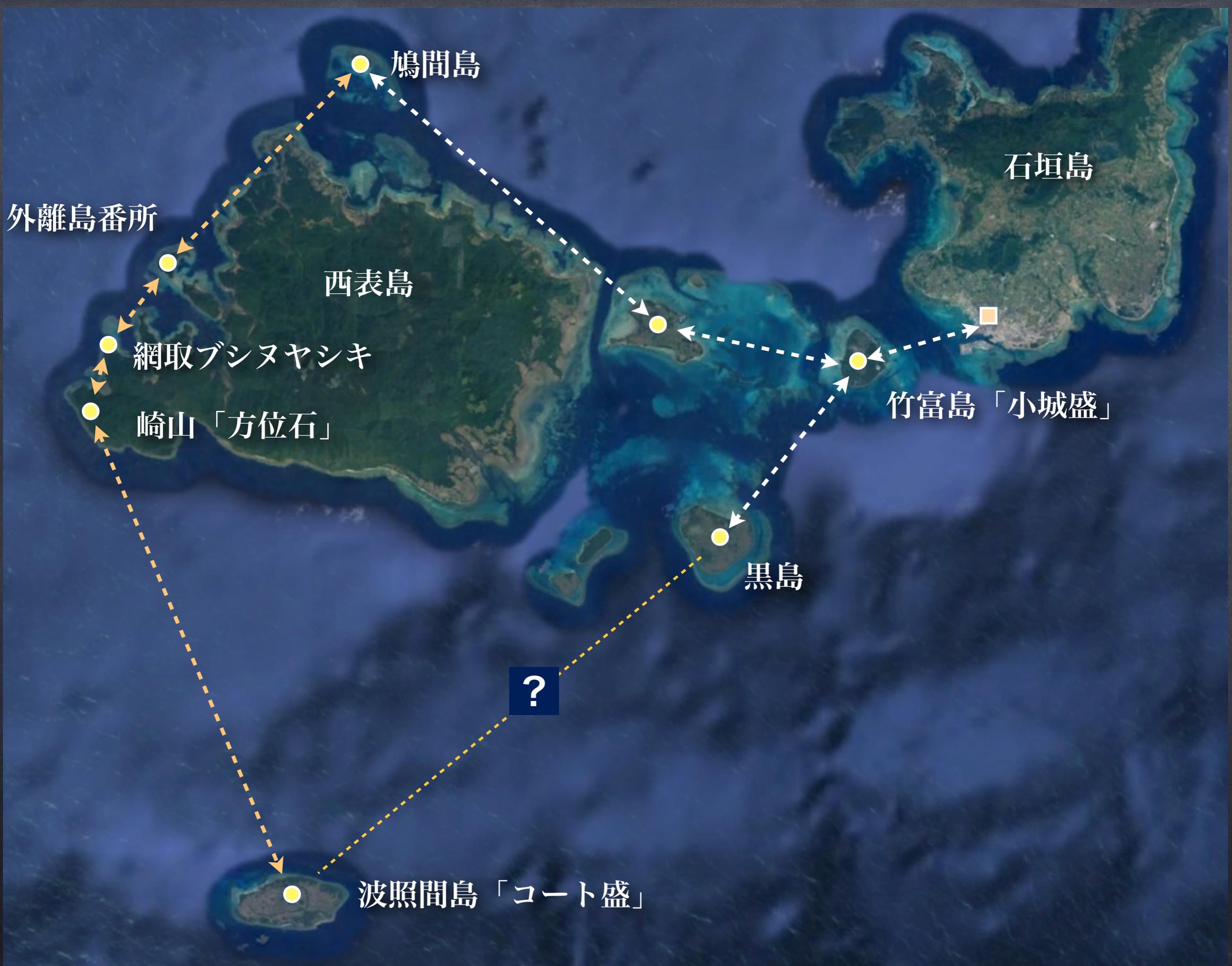
石垣島

竹富島「小城盛」

黒島

波照間島「コート盛」

?

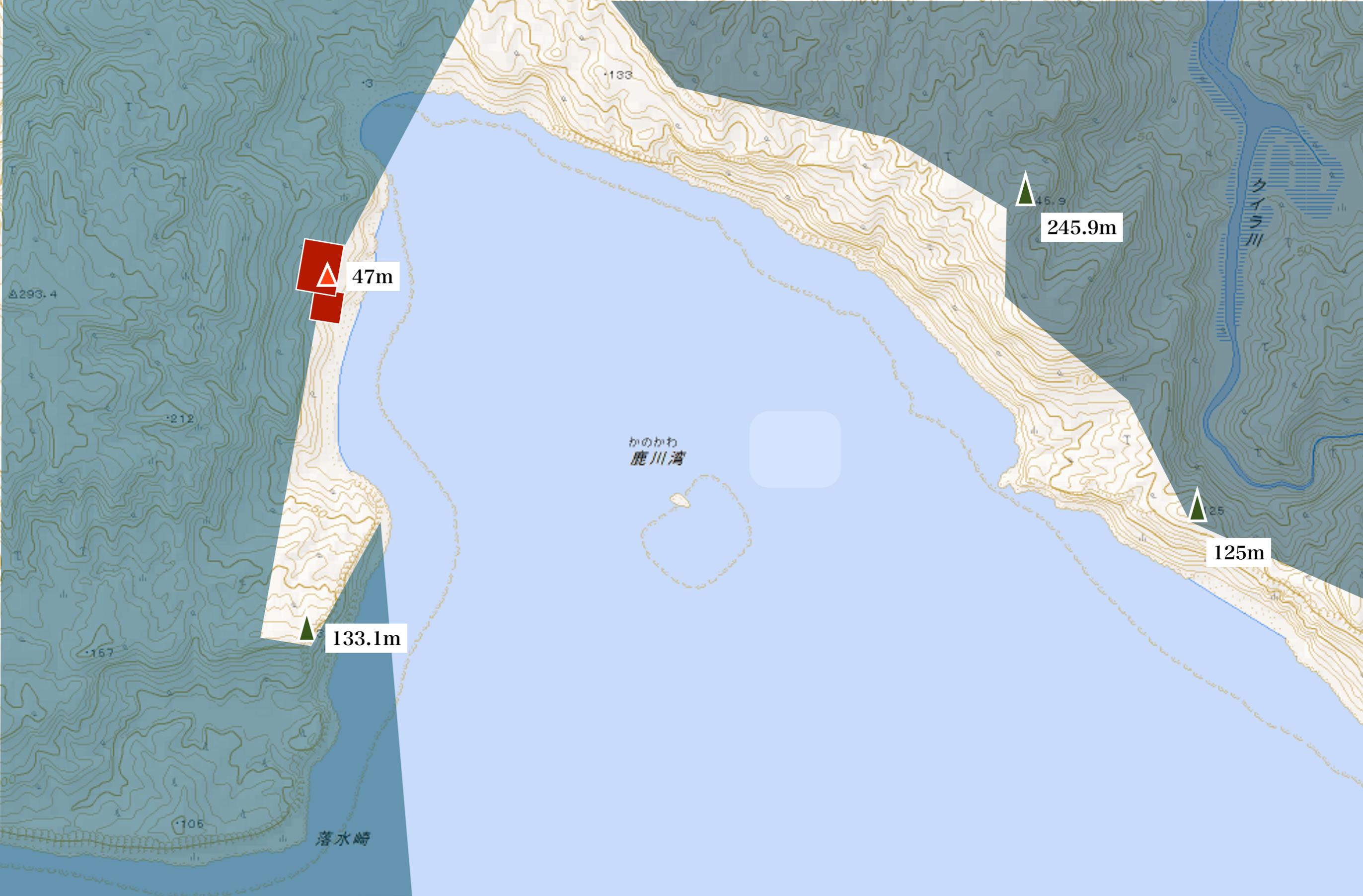


# 立地条件から推定する方位石の機能

## 「崎山の方位石」

- ① 最高所ではなく高い二峰の中間地点に配されている
  - 「遠見番所」としては一見不適切にみえる
- ② 視界は波照間島方向と網取湾方向に開かれている
  - 崎山節で謳われる望郷の念との関係は否定できない
- ③ 西表島外離島に「遠見台」が置かれたという古文書記録と、網取には崎山を眺望可能な「ブシヌヤシキ」が存在する事実
  - 現状では未確認の「崎山遠見台」であった可能性

琉球王府側から求められた「遠見番所」的機能と、望郷の念にかられ民謡の舞台ともなる顕彰地とが重なる場所だった可能性



鹿川方位石の可視範囲（南東方向の海上しか視認できない）

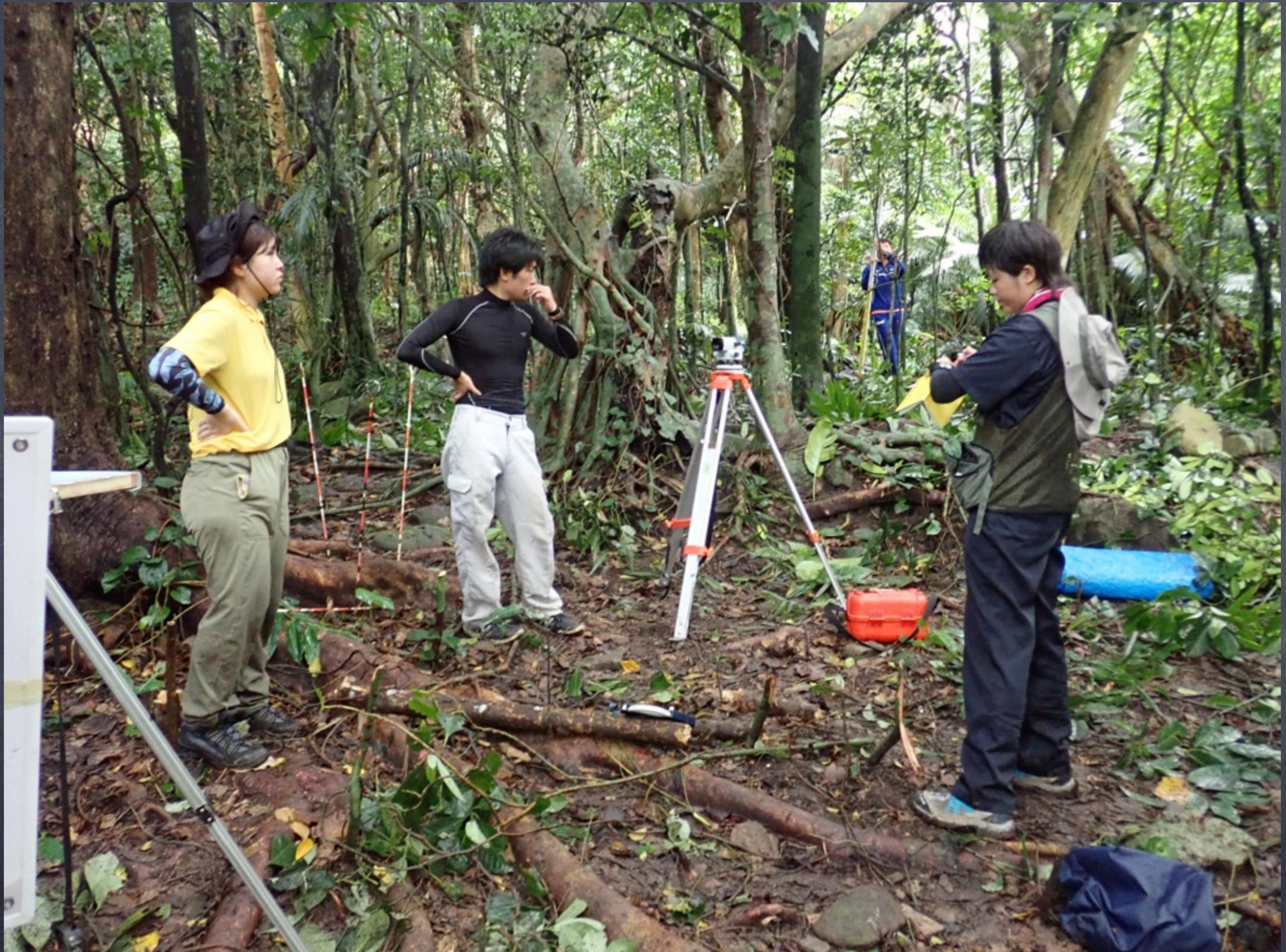
# 立地条件から推定する方位石の機能

## 「鹿川の方位石」

- ① 居住域内の標高47m地点に立地、村人全員が日常的に立ち寄る場所に配されている。→「日常性」という特性をもつ
- ② 海上への可視領域は東南方向に限定される。  
→「遠見番所」としては不適切
- ③ 北方と西方は背後の丘陵に遮られる  
→ 風向きを観測する「日和山」としては不適切
- ④ 東側の可視範囲は湾の対岸の丘陵に遮られる  
→「むりかぶし観測」はヤマアテを介してなら可能

①と④からみて、この方位石が実用性をもつとすれば、むりかぶし観測を含む「星見石」としての機能を果たした可能性しかないと推定される。

ただし観測法は不明で、鉤陳（子の星）や北斗七星はそもそも観測不可能。そうなると実用性ではなく、むしろ宗教的・精神的な側面で把握すべきか？



今回の調査で方位石の概要と両地点の周辺地形測量は完了したが、再度入念な調査が必要。今年度中に追加の補足調査を実施する予定



波照間島遠見台



与那国島遠見台



竹富島遠見台



宮古島狩俣遠見台



宮古島島尻遠見台

先島・宮古地方に現存する5基の「方位石」を対象にGNSS観測を実施したが、先島の事例は「創られた伝統」に属し、宮古のみが原位置性を保つことが判明

# 「星見石」の可能性を示唆する立石3基の現況調査 宮古島



ぶばかり石（人頭税石）  
平良地区



名称不明立石  
城辺・七又地区

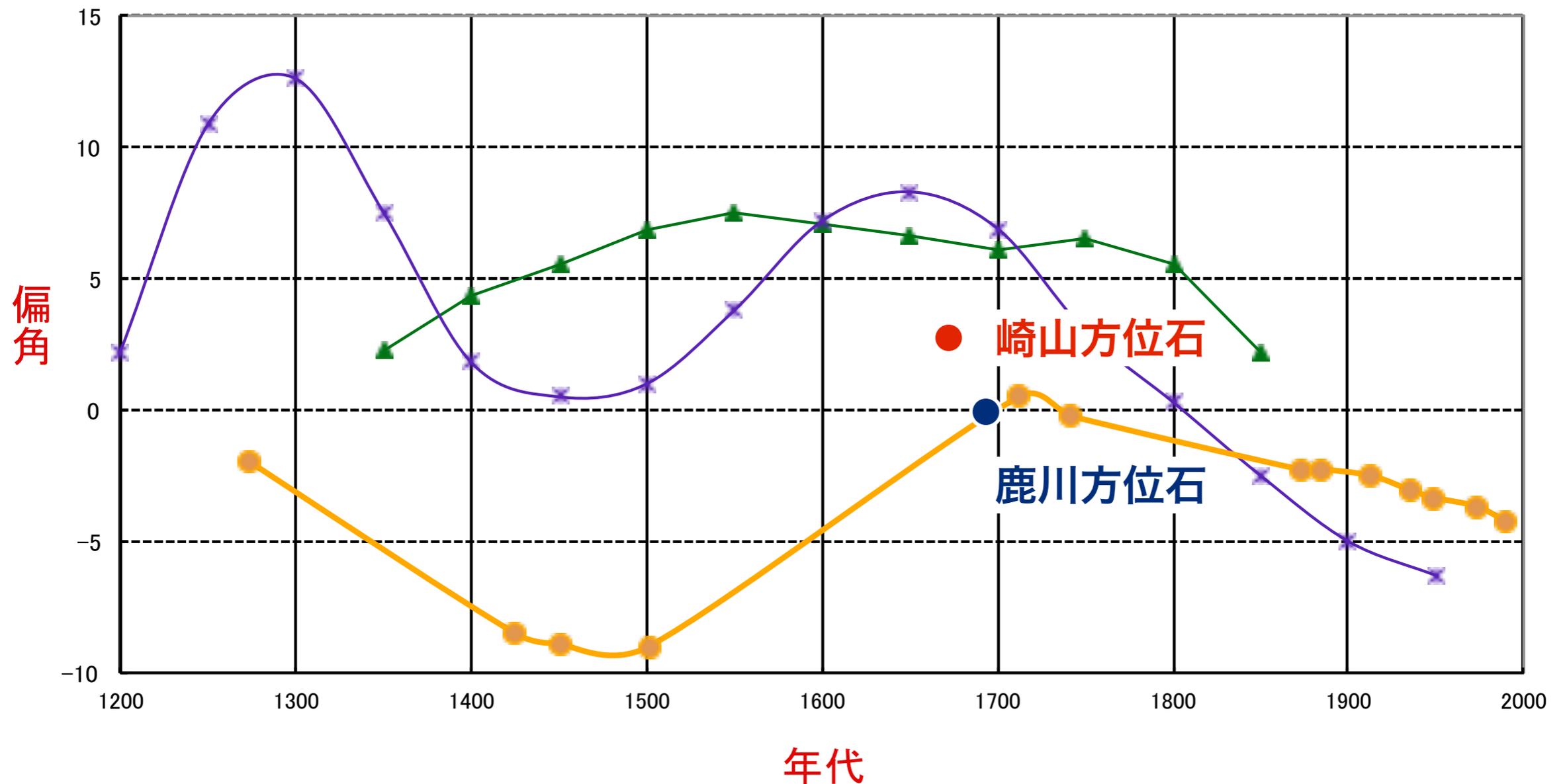


鬼の杵・神の杵  
城辺・七又地区

# 地磁気偏角永年変化との対応関係

基本データは安里進氏提供

西南日本(紫)・東海(緑)・沖縄(オレンジ)の地磁気永年変化



ご静聴ありがとうございました

